

教育実践総合センター平成 20 年度活動概要

1. 構成員

センター長（兼任）

教授 若元澄男

専任教員

学校教育相談実践部門

教授 岡 直樹 准教授 栗原慎二

教育実践研究開発部門

准教授 神山貴弥

実務家教員

准教授 時永益徳 准教授 松本 徹

相談員

エリクソン・ユキコ, 勝部奈美, 外山智絵, 小島奈々恵

客員教員(年度内の3期を分任)

河野龍彦, 長見典明, 岡田眞江 (いずれも広島県立教育センター)

事務補佐員

山本佐織, 竹ノ中亜由美

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

(1)子どもの心と学び支援セミナー

「就学・教育相談における心理教育アセスメント」〈WISC-IIIの概要と解釈〉

期日：平成20年6月19日（木）

場所：広島大学教育学部L棟304（1）

講師：妹尾 藍子（広島教育委員会学校教育部特別支援教育室 特別支援教育相談員）

対象：教育関係者全般

参加者数：31名

《就学相談に関わる相談業務の概要が紹介され、これまでの相談経験から、発達障害の可能性のある子どもの保護者が子どもの就学を前に複雑な思いを抱いていること、それゆえ保護者の思いを受け止めながら、個々の事例に応じた的確に対応すること、具体的には、(1)肯定的な関係の構築、(2)保護者の認識や障害受容に応じた関わり方、(3)子どもの実態を把握し共通理解・共通認識を持って話し合いができるような情報の収集の重要性が指摘された。後半では、WISC-IIIについての説明が行われ、実際にWISC-IIIを用いたアセスメントの事例をグループで検討していった。》

(2)子どもの心と学び支援セミナー

「発達障害のある子どものコミュニケーション支援」

期日：2008年10月18日（土）

場所：広島大学教育学部第1会議室

講師：石坂 郁代(福岡教育大学・教授)

対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

参加者数：82名

《発達障害のある子どもは、コミュニケーションの苦手さが行動面の問題となって表れることが少なくない。健常児の発達を基盤にしながら、よりよいコミュニケーション支援の在り方について石坂先生にお話しいただいた。》

(3)子どもの心と学び支援フォーラム

「ピア・サポート入門」

期日：平成20年10月30日（木）
場所：広島大学教育学部第1会議室
講師：トレーバー・コール（元ビクトリア大学教授）
対象：教育関係者全般
参加者数：46名

《前半は、ピア・サポートの起源や理念をもとに、ピア・サポートとはどのような活動であるのかについて講義を行った。「多くの子どもたちは、何か困ったことがある時に友人に相談することが多い」という実態から、コミュニケーションのスキルを学ばせることにより、子どもたちが自分たちで問題を解決していくための枠組みを作り、学校を居心地のよい環境にしくことの必要性などが示された。後半は、ピア・カウンセラーを養成するためのワークショップを行った。》

(4)子どもの心と学び支援セミナー

「アサーションのすすめーさわやかな自己表現ー」

期日 2008年12月23日(火)
場所：広島大学教育学部第1会議室
講師：森田 早苗(えな・カウンセリングルーム カウンセラー)
対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生
参加者数：54名

《アサーションとは自分も相手も大切にしたい自己表現である。自他尊重の自己表現(アサーション)を知り、さわやかなコミュニケーションのよるこれまでとは違う人間関係の持ち方について研修を行った。》

(5)子どもの心と学び支援セミナー

「ラボラトリー方式の体験学習による人間関係づくり」

期日：平成21年2月15日（日）
場所：広島大学教育学部第1会議室
講師：中村 和彦（南山大学人間関係研究センター・准教授）
対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生
参加者数：30名（定員）

《ラボラトリー方式の体験学習とは、"いまここ"での自分の生の体験を他者とともに吟味することによって、学習者の態度や行動の変化・成長を生み出す学習方法である。本研修では、ラボラトリー方式の体験学習を自身が実習を通して実際に学び、学校現場における人間関係づくりの具体的な方策を習得することをねらいとする。》

(6)子どもの心と学び支援フォーラム

「心理学からの学習支援ー個別的・集団的アプローチの試みー」

期日：平成21年3月21日（土）
場所：広島大学教育学部L205講義室
講師：市川 伸一（東京大学大学院教育学研究科・教授）
対象：現職教員、教職志望の大学生・大学院生

《心理学の理論や知見に基づいた学習面の問題に対する支援について、個別的な支援として認知カウンセリング、集団に対する支援として学習法講座をとりあげる。そして、学習支援の方法やあり方について実践例に基づき解説する。》

(7)教育実践力開発セミナー

「今、新しい教師に求められる力は一子どもが生きる学級経営ー」

期日：平成21年2月7日（土）
場所：広島大学教育学部第3・4会議室

講師：春田 美恵子（三原市立須波小学校長）

佐伯 陽（廿日市市立廿日市中学校長）

対象：学部生・大学院生

参加者数：50名

《本セミナーでは、学級経営に視点を当て、子どもたちにとって学校生活の基盤となる学級をどう育てるかをテーマとして、2名の現職校長から講話をしてもらった。その後、小・中学校別に分かれて、学級経営をはじめ教師のあり方等についてのディスカッションを行った。》

(8) 第13回学習科学広島フォーラム

（広島大学大学院教育学研究科学習開発学講座との共催）

「幼児・初等教育における読み語り（読み聞かせ）のカー日米の比較を通して―」

期日：平成20年6月28日（土）

場所：広島大学教育学部第1会議室

講演者：ディーナ・ビーグリー（広島大学大学院教育学研究科・客員教授）

林 よし恵（広島大学附属幼稚園・教諭）

山元 隆春（広島大学大学院教育学研究科・教授・附属幼稚園長）

司会：樋口 聡（広島大学大学院教育学研究科・教授）

対象：教育関係者全般

参加者数：38名

《幼児教育，初等教育において絵本は大きな教育的可能性を持っている。アメリカのウェスト・チェスター大学から来られたビーグリー先生は，広島大学附属幼稚園を見学され，絵本を用いた保育実践に感激されると同時に，アメリカとの違いも指摘をされた。日米の違いに着目しながら，絵本を読む／聞く体験の意義について議論が行われた。》

3. センター専任教員による学外講演等の活動

生徒指導・教育相談，認知カウンセリング，学習指導，学習支援，アセスメント等に関する講演や演習の指導

期間：通年（160回）

対象：主に教員，保護者

人数：約7600名

「平成20年度新任教務主任研修講座」 広島県立教育センター，4/30，80名

「今，求められている生徒指導・児童生徒理解のあり方について」 福山市教育委員会生徒指導主事研修講座，5/1，115名

「平成20年度初任者研修に係る校外研修」 大分県教育センター，5/15，50名

「三次市立三良坂中学校校内研修会」 5/22，9/25，10/8（公開研究会講演：60名）

「新しい音楽科教育の創造に向けて」 福山市小学校教育研究会音楽部会，6/2,30名

「平成20年度県立学校等教職経験5年経過教員研修会」 福岡県教育センター，6/18，60名

「平成20年度第2回いじめ・不登校等予防的生徒指導推進に係る実践校のユニット研修会」 6/20，6/24，6/26. 7/8，320名

「ブリーフセラピーによる問題の解決」 独立行政法人教員研修センター平成20年度生徒指導指導者養成研修，6/27，80名

「学習意欲を喚起する授業の創造」 温品中学校区教科等研究会，8/5，50名

「新学習指導要領をつかむ」 日本教育大学協会音楽科部会，8/12，50名

「コミュニケーション能力を高める」 山口県10年経験教諭研修講座，8/20，40名

「廿日市市立廿日市中学校校内研修会」 8/22（20名），10/10（公開研助言者：50名），

「尾道市立百島幼稚園・小学校・中学校公開授業研究会」 9/26, 30名
「尾道市立向東中学校校内研修会」 10/6, 10/23, 公開研究会講演 30名
「世羅町立甲山中学校校内研修会」 10/9, 2/4, 15名
「平成20年度第2回不登校対応担当教員研修会」 広島市教育委員会, 10/20, 200名
「人権教育を踏まえた今後の学習指導のあり方」 大阪私立中学校長会, 10/24, 100名
「学校教育の現状と課題」 宮崎県教員研修センター課題別研修, 11/7, 100名
「PISA型読解力をはぐくむ学習指導のために」 江田島市立三高中学校, 11/20, 15名
「音楽的な思考力をはぐくむ鑑賞指導」 福山市立金江小学校, 12/4, 10名
「福山市立鷹取中学校校内研修会」 1/16, 3/18, 24名
「平成20年度第3回不登校対応担当教員研修会」 広島市教育委員会, 1/28, 200名
「広島市立井口台小学校校内研修会」 1/29, 25名
「新学習指導要領と授業」 筑波大学附属小学校 社団法人初等教育研究会, 2/12, 300名
他

4. 研究活動

A. センタープロジェクト研究

- (1)研究科長裁量経費による研究（研究代表者・分担者）「児童・生徒の生活適応感に関する研究」
- (2)広島市教育委員会との共同研究「いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進事業の取組」
- (3)広島県立教育センターとの共同研究「児童生徒等の規範意識の醸成を促す生徒指導の在り方に関する研究Ⅱ」
- (4)広島県立教育センターとの共同研究「小・中学校音楽科における〔共通事項〕の指導の在り方 ―音楽的な感受を学習の中核に据えて―」

B. 附属学校・公立学校との共同研究

- (1)新潟県新潟市立鳥屋野中学校との共同研究（研究指導者） 文部科学省研究開発学校指定「社会技能科の研究開発」
- (2)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「「特色ある教育実習プログラム」の実施に関する研究（Ⅱ）―「教育実習観察」の効果に関する調査研究―」
- (3)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「かかわる力を育む幼小一貫の道德教育カリキュラム開発のための基礎研究(4)」
- (4)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「中学校における新しい国際交流プログラムの開発―Exploris Middle School・Odyssey Schoolとの交流を通して―」
- (5)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「「自己表出としての表現力」と「対象に伝えるための表現力」を見取る指標づくり」
- (6)広島大学学部・附属学校共同研究推進費による研究（研究分担者）「生活科におけるキャリア教育の構築Ⅲ」

C. その他外部資金導入による研究

- (1)現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「子どもの心と学び支援プログラムの展開 ―「にこにこルーム」を核とした学生参加型地域サービスと教員養成―」
- (2)文部科学省科学研究費による研究（研究代表者・分担者）「我が国の小・中学校『ものづくり教育』再構築に関する研究」

5. 教育・社会貢献事業

- (1)にこにこルーム（学校心理教育支援室）

○学習相談

にこにこルームの学習相談に参加した学生は26名であった。

①前期(2008年5月7日(水)から2008年7月30日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校9校で、4年生以上の児童に対し、募集の案内を配布した。そして、4月21日、22日に電話による受付を行った結果、応募者は40名であった。その中から、15名(新規10, 継続5)の小学生を抽選で選んだ。

この15名の小学生に対して、5月7日(開講式として、保護者を交えオリエンテーション)から、7月30日(修了式)まで、毎週水曜日に認知カウンセリングを11回行った。時間は小学生については、午後5時30分から7時20分までの110分で、算数の認知カウンセリングを60分、遊びを45分、保護者を交えた帰りの会を5分行った。この110分のセッション終了後、毎回ケース検討会を行った。

②後期(2008年10月29日(水)から2009年2月18日(水))水曜日の活動

東広島市内の小学校9校で、4年生以上の児童に対し、募集の案内を配布した。そして、10月15日、16日に電話による受付を行った結果、応募者は38名であった。その中から、16名(新規10, 継続6)の小学生を抽選で選んだ。

この16名の小学生に対して、10月29日(開講式として、保護者を交えオリエンテーション)から、2月18日(修了式)まで、毎週水曜日に認知カウンセリングを計13回行った。時間は、小学生については午後5時30分から7時20分までの110分で、勉強を60分、遊びを45分、保護者を交えた帰りの会を5分行った。この110分のセッション終了後、毎回ケース検討会を行った。

③サマー・セッション

8月4日~6日の3日間、1回あたり90分、小学生13名、中学生1名を対象に認知カウンセリングを行った。

④水曜日以外の学習相談

にこにこルーム4件、にこにこ千田ルーム2件であった。

○学校臨床相談

一年間を通じて、にこにこルームの活動の一環として、臨床心理士による臨床相談活動を行うとともに、支援員らのケース検討会およびセミナーを開催した。

①臨床相談(毎週木曜日・土曜日に実施日)

総来談件数47件

延べ相談ケース数:253(1/29現在)

②定期ケース検討会(原則木曜日18:00~20:30)

延べ24回

(2)学校コンサルテーション活動

概要:公立学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期:通年(61回)

対象:教員および保護者等

人数:延べ約120名

(3)地域教育実践ボランティアネットワーク事業

本事業は、「教師に必要な幅広い社会的視野と実践的指導力の育成」および「市民としての自覚形成と街づくりへの参画」を目的として、学校や各種施設等からの学生ボランティア派遣の要請にこたえ、希望する学生を募集し、派遣する制度である。本年度は、6件の派遣要請を受け、延べ90名の学生を派遣した。

(4)フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

本学部では教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員11名から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織し、その運営にあっている。

①活動の趣旨

「教員養成学部の学生が、地域の小学校に在学する児童および住民の方たちと共に自然体験・勤労体験などの直接体験活動を行うことにより、教師として豊かな資質を養うと同時に児童の生きる力を育て、地

域の人々と児童、学生の交流を深める」ことを趣旨とし、平成9年度より活動を開始して、20年度は12年目である。

②活動の形態

20年度は「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。

③実施内容

- 1) 活動は、H20.4からH21.2にかけて、月例活動9回、大学内シンポジウム1回を行った。月例活動の活動時間帯は、午前10時から午後4時。
- 2) 参加学生は、受講学生と単位を必要としないボランティア学生を含め約100名。児童は東広島市立小学校37校から募集した144名。地域の協力者は、東広島市下見地区を中心とする20名。
- 3) 児童9名と学生5名で1班とし、16班を編成し、サバイバル(4班)、あそび(4班)、おもちゃ(4班)、わくわくワーク(4班)の4グループに分けてグループ活動や、畑での栽培活動や餅つきなどの全体活動を行った。

(5)学外から委嘱された委員等

- ・日本教育心理学会、理事
- ・日本教育心理学会研究委員会、委員長
- ・日本心理学会、専門別議員(第1部門)
- ・学会連合資格「学校心理士」認定運営機構、認定委員
- ・『教育心理学研究』編集委員会、常任編集委員
- ・日本ピア・サポート学会研究紀要編集委員長
- ・日本学校教育相談学会論文審査協力委員
- ・日本学校教育相談学会研修委員会委員
- ・文部科学省「生徒指導・進路指導に関わる有識者会議」委員
- ・広島市学校評価システム専門家評価専門委員
- ・世羅町立小学校統合検討委員会委員(委員長)
- ・文部科学省「学習指導要領の改善に関する協力者」委員
- ・国立教育政策研究所「学力の把握に関する研究指定校事業」企画委員
- ・国立教育政策研究所「特定の課題に関する調査」調査員
- ・小学館『教育技術』編集委員
- ・日本心理学会代議員
- ・日本ピア・サポート学会研究紀要査読委員
- ・東広島市平成21・22年度使用小学校教科用図書選択に係る選定委員会委員(委員長)
- ・東広島市平成20年度新・学校教育レベルアッププラン推進委員会委員
- ・広島市立古田中学校学校協力者会議委員

6. 研究紀要の刊行

学校教育実践学研究(第15巻)の刊行